



The gazette of the International University of Health and Welfare

第22号

発行：学校法人国際医療福祉大学
編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線7108



8月5日 成田への出発



中国リハビリテーション研究センター受付

国際ボランティア活動・研修

中国8月5日から8月18日、アメリカ8月5日から8月25日、ベトナム8月5日から8月25日 (記事4ページ)



アメリカ プロビデンス病院 (Washington, D.C.)



送別会 学生とベトナムのスタッフ

= 目次 =

Table with 4 columns: Page, Title, Page, Page. Includes sections like 'お知らせ', '国際ボランティア活動・研修特集', '国際交流委員会', '医療福祉学科', etc.

お知らせ

◇小笠原(父島・母島)視察旅行記



東京から南へ1000キロ、竹芝桟橋からおがさわら丸(6679トン)で25時間30分の父島。更に南へ母島丸(490トン)で2時間の母島です。昨年外部講師による母島診療所の体験談が引金となり、離島に於ける医療福祉の実態と島民の生活環境などを視察研修したいという看護学科2年生8名、4年生2名とともに8/7出発しました。2等船室での一夜はお互い背中を擦り合わせたものですが、冷房完備、シャワー浴室あり、テレビありで、カラオケルームで気分転換も。さて父島に近づいた頃の海は夢の世界でした。透き通ったブルーは感動でした。母島・父島の診療所見学や福祉課での説明と質疑応答に充分時間をいただき所期の目的を達成することができましたが、皆さんの親切なおもてなしに又々感動でした。島の観光船で南島、ジョンビーチ、兄島海中公園などを巡り、イルカの大群の歓迎を受け、魚達と共に泳いだ感動も忘れられない思い出となりました。返還30周年の今年に島の明暗を両面から見聞し、多くの課題を持って真黒に日焼けした一行は無事帰って参りました。後日レポートで発表すると張り切っています。ぜひご覧下さい。(寺沼幸子)

◇放・情学生、放射線技師世界大会で発表



4年毎に開催されるISRRT世界大会(幕張メッセ)で当学科の学生が演題発表をしました。演題名は、放射線科領域における「医師と診療放射線技師との教育過程(日本)の比較」です。4年生の笹森君他8名の

学生が全国の医科大学のカリキュラムを集め、自分達の学んでいる放射線技師のカリキュラムとの比較検討を行なったものです。更に、当大学の特色を生かし、各学科長より、他職種の意見の検討も加えた発表でした。ポスターセッションのため展示方法も工夫し、その結果156演題の中から選ばれる賞にノミネートされました。また、39ヶ国の方達とのパーティを始め、国際交流にも積極的に参加し、演者への英語での質問もしておりました。国際と医療を冠した大学の着実な歩みを見た思いです。

(金場敏彦)

◇国際医療福祉病院開院

国際医療福祉病院は、西那須野町で唯一の病院として、9月7日に正式開院しました。

現在、内科、外科、整形外科、泌尿器科、麻酔科、眼科をおき、日々外來患者、入院患者も増えて来ています。また、リハビリテーションや人工透析の設備もそなえ、地域の方々のニーズに応えるべく努力しています。

当病院は、診療に全力を尽くす一方で、学生の皆さんの実習病院としての使命も果たすべくスタッフ一同心一つにし、充実した医療を提供してゆきます。

◇「第3回風花祭」開催のお知らせ

大学恒例の「第3回風花祭」が、10月24日(土)、25日(日)に開催されます。

内容は、学生による研究発表、学科の紹介、模擬店、アトラクションの他、受験生のための大学説明会を同時開催。

その他24日には午後1時45分より教育後援会「会員のつどい」が開催され、元厚生大臣丹羽雄哉氏による記念講演「21世紀の医療福祉政策について」(入場無料)が行われます。そして25日には午前10時半より、今お笑い界を席巻中の松本ハウス、海砂利水魚によるライブ(大学生以下800円、一般1,000円)、午後1時半より国際医療福祉総合研究所所長、前世界保健機関(WHO)事務局長中嶋宏氏による講演会「私のWHO 25年」(入場無料)が行われます。

また2日間とも、JR那須塩原駅と大学間を無料送迎バスが運行いたします。

昨年よりさらにパワーアップした大学祭へ、皆さんご家族、ご友人をお誘いの上、是非お越し下さい。



◇99年度入試日程

入試区分	試験地	願書受付期間【消印有効】	入学試験日	
			保健学部	医療福祉学部
高校推薦入試/ 留学生・帰国生徒 特別選抜入試	大田原	平成10年11月2日(月)～11月9日(日)	平成10年11月14日(土)	
社会人 特別選抜入試	第1回 大田原	平成10年8月10日(月)～8月24日(日)	平成10年8月29日(土)	
	第2回 大田原	平成10年12月21日(月)～1月7日(日)	平成11年1月16日(土)	
一般入試 前期日程	A日程 仙台/大田原 東京	平成11年1月5日(月)～1月21日(日)	平成11年2月1日(日)	平成11年2月2日(日)
	B日程 大田原/東京 名古屋/福岡		平成11年2月4日(日)	平成11年2月5日(日)
一般入試後期日程	大田原	平成11年2月19日(金)～3月5日(金)	平成11年3月15日(月)	平成11年3月16日(火)

※一般入試前期日程はA日程およびB日程の出願手続をとることにより、2回受験することができます。

※保健学部的一般入試では同一学部内の学科に限り第2志望学科を出願できます。

※医療福祉学部的一般入試では志望学科でないもう一方の学科を第2志望学科として取り扱います。

◇書評：The Walls Crumble

(英訳版「らい予防法廃止の歴史」)

“The Walls Crumble”

And the Bricks Turn Into Flowers

“The Walls Crumble,” by our own President Fujio Ohtani, has been translated into English. The book tells of Hansen's Disease victims and the hardships they faced under the old Leprosy Prevention Law. In President Ohtani's own words, this law put Hansen's sufferers into “life-long isolation which it imposed on patients, and the pain, anguish and suffering perpetrated on the patients by the policies and actions of what amounted to a police state mentality.” Hansen's patients were actually banned from mainstream society and shunned. The book tells of a man, President Ohtani, who struggled to fight against the injustice of the old Prevention Law and thus emancipate Hansen's patients. His primary tools in his fight were love and understanding, not just for Hansen's victims but for those trying to stop his fight. To stop injustice, one must understand the oppressors as well. Only then can “The Walls Crumble.” (Kevin Dobbs)

部・委員会報告

◇国際部

(Kenya Medical Training College (KMTCC ケニア医療専門カレッジ)訪問と国際協力)

本年度(1998年)から5ヶ年計画でIUHWと国立公衆衛生院の連携で、ナイロビ市内にあるKMTCC(14学部あるコメディカル専門校)へのJICAプロジェクトが開始されました。日本から対ケニアの国際協力は、医療関係だけで4種あり、総額で最も多くの貢献をしているのです。基礎看護教育の現状を知り、先方のニーズに合わせた協力が何が出来るとかを模索する11日間で

した。本学から長期出張の山崎統四郎先生には、チーフアドバイザーとしてお世話になりました。社会情勢もままならぬ国のナース達は元気でした。

(荒井榛子)

KMTCCプロジェクト便り

本年3月にスタートした本プロジェクトは順調に立ち上がりました。8月には日本から派遣されている医療関係者として米大使館爆破事件直後の救援活動にも参加しました。今ナイロビは日本の5月の様な気候です。あの美しい藍色のジャカランダの花が咲き始めました。11月にはKMTCCの教官を対象とした中堅技術者研修が始まります。これからも本学関係者の本プロジェクトへの積極的な参加とご支援を期待しています。またケニアから大学に派遣される研修生を暖かく迎えてあげてください。本学とKMTCCの益々の発展を祈ります。

(山崎統四郎)

◇教務委員会

再試験に教育的効果はあるのか

この欄における教務委員会(3つの小委員会を含む)報告は、おそらく学生は誰も読まないと思います。そこで、この欄は視点を変え、学生諸君にさまざまな教務関係上の課題を問いかけたいと思います。その方が、審く方も読む方もお互いに元気が出るというものです。

今回は、期末試験後に毎回大量に登録される再試験該当者数に疑問を投げかけたいと思います。あの大量の数は、再試験後はどこに行ってしまうのでしょうか。教員は、教育的配慮という言葉を用いますが、再試験になってやっと勉強するという教育的配慮の効果は、評価に値するものなのでしょうか。学生諸君、教えて下さい。

(杉原素子)

◇国際交流委員会

98年夏期国際活動が3ヶ国で行われ、参加学生は大きな成果をあげて全員無事帰国しました。

(1)第2回ベトナムボランティア 於：チョーライ病院 8/5-8/25 参加7名：木下いづみ（看護4）、九鬼麻実・黒木由美子（理学4）、西山小織・福田亜美（作業4）、茜ヶ久保嘉代（作業1）、竹田千鶴子（福祉1） 引率教員：島津望（経営）

(2)第1回アメリカボランティア 於：プロビデンス病院 8/5-8/25 参加9名：戸部真由美（看護3）、松本乃里子（作業3）、河合祥千子・村山梨詠（言語3）、小原知絵子（看護2）、山下美紀（言語2）、狩俣一郎（経営2）、松田由美子・柳原吏子（福祉2）

引率教員：南井紀子（語学）

(3)第1回中国研修 於：中国リハビリテーション研究センター 8/5-8/18 参加14名：芦澤由佳（看護4）、飯島利浩・藤井清美（作業4）、天田稔・後藤三和子・鈴木正浩・照井直美・名倉恵子・西澤絃子（言語4）、依田学（作業3）、中村望美（言語3）、中新井美紀・野村奈美・安田聡子（言語2） 引率教員：杉原素子（作業）、藤沢しげ子（理学）

出発に先立ち、8月1日に記者発表、結団式、壮行会が行われ、学長や教職員の激励を受けました。毎日新聞（8月2日）、下野新聞（8月3日）に紹介記事が掲載されました。（田中美子）

国際ボランティア活動・研修特集



プロビデンス病院
ボランティアのユニホームを着た学生たち

◇アメリカ研修旅行

我々米国研修班は各自、それぞれの専門分野である部署に配属される機会を与えていただきました。アメリカの「人を育てる」という環境の中で、それぞれの研修先病院の職員から医療分野のスペシャリストとしての姿勢を学び、日常生活の場からも様々な勉強をしてきました。中でも医療経営管理学科の学生は、病院のメンテナンスという普段あまり目にする機会が少ない部署に配属され、貴重な経験をしてきました。休日には、スミソニアン博物館で様々な分野の本物を見るという素晴らしい経験を得ることができました。今後もこれらの経験を生かし、常に何事へも興味を持ち、学ぶという姿勢を持ち続けていきたいと思っています。

（言語3年 河合祥千子）

◇ベトナムという国を見て感じた3週間

とにかく陽気で温かな人々、活気溢れる町、おいしい食べ物、難しいベトナム語などさまざまな物を見、触れ、挑戦してきました。家族のつながり、リサイクル精神など見習うべき姿がそこにはたくさんありました。最初は交通事情の悪さや英語の通じなさに驚きましたが、だんだん道も上手く渡れるようになり、ベトナム語も覚え始めるとすっかり心はベトナム人になっていました。ボランティア活動というよりは交流を深める毎日でしたが、お世話になった恩返しにいつの日か一人前の理学療法士として皆と再会したいと思います。

（理学4年 九鬼麻実）



チョーライ病院PTスタッフの方々と学生たち

◇中国研修旅行

中国リハビリテーション研究センターにおいて、看護・作業・言語のそれぞれの部署にわかれ、現地の患者さんを相手に様々な実習を行いました。センターの先生方の中には、日本語を話せる先生もいますので、コミュニケーションは、主に日本語ですが、英語や漢字から意味を理解することもありました。実に多くのことを学ばせていただきました。

休日は、万里の長城や天安門など文化的、歴史的名所旧跡を観光し、悠久の歴史を感じさせられました。また、中華料理をたらふく食べ、北京を満喫しました。

1日1日が充実しすぎるほどでしたが、広い北京は2週間では足りないと感じる研修旅行でした。

（作業4年 飯島利浩）



北京天安門広場にて

◇紀要委員会

盛夏にもかかわらず第5回紀要委員会を8月18日(火)に開きました。実際は暑気払いのビールの宴となりました。紀要第2巻を既に発送しつつありますが、遠方よりお礼のはがきが多数届いております。事務局のご努力で紀要発送先のリストがデータベース化されておりますが、今年もこれを見直しますので、各学科、各センターごとに委員経由でご検討下さい。

紀要第3巻の編集作業は夏休みで少しペースダウンいたしました。後期に入りましたので活動を再開いたします。本学の研究活動範囲が広範なため、投稿規程などの見直しが若干必要になってきております。

(野原功全)

◇ボランティア委員会

6月から9月初旬にかけて学内のボランティアは各方面で活躍しました。南那須町に在宅する脳性まひ児童・あつし君の介護ボランティアとして9名が参加。河村君(放・情)たちのグループ8名は、障害児童と一緒に菓子作りプログラムを実施。学内の献血ボランティアサークルの皆さんが、栃木県内の学校に呼び掛けて“大学・専門学校献血ボランティアグループ”を結成。

夏休みのプログラムとして各方面から募集が来ました。馬頭町社会福祉協議会主催の“障害児童サマースクール”には、5日間で延べ42名が参加。その他、毎年恒例の“マロニエ苑・栃の実納涼祭”にも“あじさい”その他のメンバーが参加。

8/27からの集中豪雨による水害救援のボランティアも活躍しました。9/1に緊急のボランティア委員会開催。募集を掲示。約一週間で避難所の炊き出し、家屋の後片付けに学生課程由で“青い鳥”他から21名(福祉10名、理学6名、経営3名、看護2名)その他に“あじさい”サークルや個人参加の学生も直接現地に入りました。

(鈴木五郎)

◇図書委員会

図書館に働くメンバーと、役割分担(新人紹介もかねて)

現在本学図書館には5名が専任で仕事につき、それぞれの業務を分担しています。この8月からの新人、鈴木留美子さんはレファレンス・サービス、同新人の西村深紀(みき)さんは雑誌関連の仕事です。4月からの岩永和子さんは、図書館の一般的な庶務関係の仕事。同4月入職の大内幸(みゆき)さんは、相互貸借手続に、そして山口信子さんは、受入図書整理にと、全員時間一杯の仕事内容に懸命です。勿論、顧問の青先生が何もかも御指導下さってのことです。今後の図書館の発展に向け、前むきの御意見をぜひ委員まで。

(荒井榛子)

学科・センターだより

◇看護学科

4病院に分かれ、夏休み返上で助産実習

7月下旬から9月上旬の9週間、4年生21名の助産実習(選択)を行いました。実習は、大田原日赤を除いてほとんどの学生が泊まり込み。大田原日赤で実習を行った学生も、集中豪雨の時、病院の前の道路が川になって大変でした。一部の学生は、分娩介助件数が足りず補充実習をする予定です。教員側としては、実習の時期や分娩件数の問題など反省点多しです。

いずれにしても、実習を終えて、分娩介助した母親と新生児の写真を持ってうれしそうに報告に駆け込んで来た学生の顔を見てほっとしました。(茅島江子)

◇理学療法学科

オーストラリア海外研修

理学療法学科では、9月13日から18日の6日間、オーストラリア・クイーンズランド州に海外研修に行ってきました。参加者は、丸山学科長を団長に教職員9名、4年生41名の総勢50名です。旅行の目的は、大学や王立子供病院を訪問することであり、国際的な生きたコミュニケーションの場を持つことでした。クイーンズランド大学は、創立約100年という伝統ある大学(7学部、学生数27,000名、スタッフ5,000名)であり、理学療法学科の1学年は110名、臨床実習指導教員も含めて42名の教員を抱えていました。広大なキャンパスで、海外からの留学生も多く、とても魅力的な大学でした。フリータイムには、ドリームワールドやシーワールドを訪れ、童心にかえって思いっきり遊びました。また、連夜、理事長主催のパーティーで盛り上がり、斉藤・江口先生のプロ顔負けのツアコンぶりも楽しかったです。おかげで、ちょっと国際人になれたと思いませんか?

(黒澤和生)

◇作業療法学科

3年生 課題実習(前期)終了

8月下旬からの大雨で、1年生の基礎実習は延期になりましたが、9月7日から2週間にわたって行われた3年生の課題実習は無事終了しました。臨床の作業療法士が立案した作業療法計画を実践の場で学習した感想はどうですか?実習報告書には書けなかった貴重な体験や、まだ自分の中で十分に納得、理解できていない事も結構あるでしょう。次の実習までに反省し、更なる勉強の励みにしてください。9月28日からは4年生の症例研究が始まります。いよいよ最後の総合実習へ向けてラストスパート。ガンバレ!!(濱口豊太)

◇言語聴覚障害学科

1期生の卒業まで、この原稿を書いている時点で、あと半年となりました。現時点での本学科の最大課題の一つが就職対策です。就職活動には学生一人一人が主体的に取り組んでおり、夏休みと実習の合間に病院や施設訪問を重ねています。学科としてもあらゆる機会をとらえて雇用促進活動を行っています。そうした活動の成果が徐々にあがっており、9月以降、内定や内定の報告が学科事務室に寄せられてきています。しかし、他学科にくらべると、苦戦を強いられることは否めません。今後とも全学のサポートをよろしくお願いいたします。(伊藤元信)

◇放射線・情報科学科

夏休みが終わりました。1、2年生にとっては一番楽しいときだったと思います。夏休みに入る前に「文学小説を読みましょ。」と云いましたが、実行できたでしょうか。読むだけでも苦しかったと思いますが、できることなら、それを書いた人とその背景も知って欲しいと思います。読書は皆さんの人生を豊かにし、苦しいときに必ず力になってくれます。

3年生は臨地実習に出かけました。昨年と同様に2班に分かれ、前班は既に9月14日から7週間の予定で出発しました。後班は11月2日からの予定です。4年生は就職、国家試験の準備に懸命です。(野原功全)

◇医療経営管理学科

第2回目の病院実習はじまる

夏休みも終わりに近づいた9月下旬、今年入学の第2期生の病院実習がはじまりました。自治医科大学、獨協医科大学、東京医科大学、順天堂大学、東京女子医科大学など特定機能病院と、地域の一般病院、医療関連ビジネスでの見学実習とそれに基づく討論の時間です。入学後5ヶ月たって、スーツ、ネクタイ姿の1年生にも落ち着きが出て来ました。2年生は来春に県、国の医療・福祉行政などを学ぶ実習が計画されています。(紀伊國献三)

◇医療福祉学科

1年生の施設・機関見学実習に思うこと

夏休みをはさんで見学実習が行われました。今年は社会福祉の施設・機関、病院と見学先も数多く設定され、学生の選択の幅が広がりました。

見学実習は、学校での学びを現場とつなぐ大切な機会ですが、学生が現場にデビューする場面でもあります。服装ひとつでも何を着ればよいかわからないという声がかれました。各自の好み個性として受容される学校と学習目的で他者の空間にお邪魔する際とで自分をどうかえたらよいか、想像力をはたらかせて

思いやりのセンスを磨いてほしいと思います。

(田澤 薫)

◇語学教育センター

3・4年生の選択英語とEnglish Evenings

7月は大きな行事で忙しい時期でした。前期のみ開講の選択英語(英会話と英作文)では、受講者一人一人の頑張りを褒め、ささやかなパーティーをしました。英字新聞、英語での論文作成、open conversationでの流暢な英会話と、達成感を味わってくれたことと思います。English Eveningsも3年目、クラス編成も3つに増え、より充実したプログラムを提供しました。嬉しいことに参加者からのお褒めの言葉が下野新聞の投書欄に載りました。後期も語学教員は皆元気です。(南井紀子)

◇医学教育センター

一本学での医学教育について考えること—その2

本学の学生諸君に対する医学教育を如何に組み立てるべきでしょうか? 広義の医療に貢献すべき人々にとって医学知識が重要であり、将来の業務に多くの糧をもたらすものでなければなりません。この種の教育は旧来の大学医学部、医科大学などで医学生の教育に当たってきた教員が担当してきました。学生の医学知識として何が必要かを深慮し講義と実習を組み立てることが肝要です。勿論、当センターの教員は皆その努力を重ねていることは言うまでもありません。いま、新カリキュラムが検討されている時に際し、まさに新しい構想を必要とする時代と云えるでしょう。(都築正和)

◇臨床医学センター

クリニックの現状

昨年6月「科学的でかつ適正な医療の普及」を目的に開院して1年余、お陰様で学生約3千名及び教職員の健康管理は軌道に乗り、人間ドックも開始しました。

外来患者数は学生の休暇で大きく変動しますが、一般患者が直接的右肩なりに自然増加し、当初1日15名程度が最近では平均70名、多い日には130名を越し、全外来患者の半数以上を占めています。総外来患者が200名近い日もあり、診察室の不足が悩みです。

入院患者は1日7~8名程度ですが、特に学生は症状に応じて病室から授業に出られるので喜ばれています。(齋藤和雄)

◇言語聴覚センター

セミナー「子どものことばの障害」の開催

9月12日(土)に言語聴覚センターの職員が講演を行うセミナー「子どものことばの障害: その発見と対応」

を開催しました。保育所の保母さん、幼稚園教諭、保健センターの保健婦さん等70名近くが参加され、聴覚障害、ことばの遅れ、自閉症、構音障害、吃音について障害の概要と対応の仕方について話しました。参加者からは実際に関わっている子どもについての質問が続出しました。アンケートでは具体的でよくわかったとの声が多く、今後もセミナーを継続して開催して欲しいとの要望が寄せられました。(斉藤佐和子)

教員紹介

(毎号、各学科・センターから1名ずつご紹介頂きます。)

①所属・職位②生年③出身校④専門分野⑤直前の勤め先⑥主要著書・論文どちらか1点のみ⑦本校における担当科目⑧趣味

城ヶ端 初子(じょうがはな はつこ)



①看護学科・教授②1945年③佛教大学大学院教育学研究科④基礎看護学⑤米国バージニア州立ジョージメーソン大学大学院⑥基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ(さいろ社)⑦基礎看護技術論、健康管理論Ⅱ、看護実習Ⅰ、研究Ⅱ他⑧読書、エッセイを書くこと

清水 慶昭(しみず よしあき)



①放射線・情報科学科・助教授②1945年③東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程④微弱光計測、生物フォトン⑤筑東芝・那須工場⑥Photon Counting Spectral Analyzing System of Extra-Weak Chemi-and Bioluminescence for Biochemical Applications. Photochem. Photobiol. 30,169(1979)⑦応用数学、応用物理学、電子工学、電子工学実験、電気工学実験⑧昆虫採集(主に蝶、6年間ブラジルにも住む)、山歩き、読書

紀伊國 献三(きいくに けんぞう)



①医療経営管理学科・学科長・教授②1933年③国際基督教大学、Northwestern University大学院④病院管理学、医学教育⑤東京女子医科大学⑥医療の将来像(日本評論社)⑦国際医療福祉論、医療システム、日本の社会事情と医療、医療保険制度の国際比較、社会保障、医療福祉法規⑧ワインの本を読むこと、時に飲むこと、オペラをビデオで聞きながらなら最高

大島 寛(おおしま みのる)



①医療福祉学科・助教授②1939年③日本社会事業大学④社会学、社会福祉学、医療ソーシャルワーク論、ケースワーク論⑤国立療養所東京病院⑥MSWの役割と専門技術(へるす出版)⑦医療ソーシャルワーク論、ケースワーク論⑧史跡探訪

藤波 襄二(ふじなみ じょうじ)



①医学教育センター教授②1928年③東京医科大学④衛生学公衆衛生学⑤東京医科大学⑥ホリスティックな癒しのために(日本教文社)⑦公衆衛生学⑧謡曲、茶道、囲碁

大橋 一之(おおはし かずゆき)



①臨床医学センター・助教授②1956年③日本大学松戸歯学部④歯科口腔外科⑤自治医科大学歯科口腔外科学講座⑥Immunohistochemical Study on Relationship Between Therapeutic Effects and Cell Proliferating Activity in Oral Squamous Cell Carcinoma. Oral Oncology vol V, 465-468, 1997.⑦臨床歯科学、形成外科学、成人看護論Ⅱ(歯科口腔外科)⑧スポーツ観戦、ゴルフ、ドライブ

第9回IUHWクイズ当選者発表

多数応募の中から正解者は68名でした。厳正な抽選により故・情3年木村聡さんが第9回IUHWクイズの当選者に決定しました。正解は下記の通りです。ご協力ありがとうございました。

正解

問1. ③ TAO

問2. ④ 国道461号線

問3. ③ フランス

問題

問1. 通信・放送機構の略称は?

①TACO ②TARO ③TAO ④PAO

問2. 大学の前を走っている国道は?

①国道4号線 ②国道331号線
③国道400号線 ④国道461号線

問3. この夏「海外ボランティア研修活動」で予定していない国は?

①中国 ②アメリカ ③フランス ④ベトナム

サークル紹介

◇山岳スキー部

心のバリアフリーを目指して

私は今年行われた長野パラリンピックにとっても大きな影響を受け、一念発起して障害者スポーツ指導員の資格を取りました。障害者の方がスポーツを通して社会参加できるように、そして少しでも多くの人の自立を手助けしたいと思っています。障害者と社会には目に見えない心の壁があって、そのために障害者が社会参加しづらく、また、社会にも障害者への差別があるのが現状です。スポーツが障害者の持っている心の壁を取り除くことができると信じています。そして私達一人一人が心を開くことが大切だと思います。

(放・情4年坂本裕明)

編集後記

夏期休暇がおわりキャンパスに活気が戻ってきました。とはいえIUHWの皆さんにとっては夏「休み」とは名ばかり、各地での意欲的な取り組みは本号でご紹介した通りです。それぞれのご報告を感銘をもって拝見しつつクイズのねたをいただいていたことはどうかご容赦下さいませように。

(田澤 薫)



リレーエッセイ

同じ金融不安でも政府は昔の方が立派です

総合教育センター 三井 速雄

昭和2年の金融恐慌は、今日わが国の当面しているものと対比されるほど深刻なものでした。3月にいくつかの大銀行の休業から始まり、その責任で内閣が交替し、新内閣で高齢病弱にも拘らず蔵相となった高橋是清の手腕によって、ようやく沈静化したのです。

高橋蔵相はまず3週間のモラトリアムを行い、次いで破綻に瀕した台湾銀行とその他の銀行に、国庫負担を前提とした政府保証の日銀融資を執行することとしました。そのための法案審議では、国民に過大な負担を押しつけるものという反対が強かったのですが、高橋蔵相は病を押して答弁に立ち、この措置の必要性を熱意を込めて説明しました。そして最後に議会は、問題はあるが、難局のり切りに努力している蔵相を全面的に信頼するとして、法案に同意したのです。

さて今日政府がやろうとしているのは、同じく金融機関への公費の投入なのですが、小淵首相は官僚の書いた作文を読み上げて答弁するばかりで、この事態に対処する熱意が少しも伝わって来ません。これでは政府を全面的に信頼する気には全くなりません。

次回執筆者：今井四郎先生（総合教育センター）

IUHWクイズ —第10弾—

賞品はなんと旅行ギフト券（8,000円分）！

海外に広がるIUHWパワー

この夏「海外」で活躍したIUHWの学生・教員にまつわる問題です。夏の思い出をふりかえってもわからない人はIUHW22号を熟読しなおして下さいね。解答番号を書き込み、事務局窓口外側のメールボックスへ。全問正解者から、抽選で1名の方に旅行ギフト券を差し上げます。応募資格は本学の学生で、1人1通、〆切は11月16日。

キリトル

学科	_____	学年	_____	キ リ ト ル	
名前	_____				
解答					
問1.	_____				キ リ ト ル
問2.	_____				

問1. ますます盛んな海外ボランティア・研修。本号に報告されたチームのうち「言葉の壁を感じなかった強者はどの医療機関を訪れたご一行？

- ①チョーライ病院 ②プロビデンス病院
③父島診療所 ④王立子供病院

問2. 国際協力事業団との協力でケニアにいらしているのは山崎純四郎先生。さて国際協力事業団の略称は？

- ①JIVE ②JICA ③JILO ④JANKEN